

Nami-Aru? / Internet

「サーファーのいいわけ The Unwritten Rule」

文：ジョージ・カックル

若いサーファーたちはもちろん、時々俺みたいなオヤジサーファーも、マッチョでバカになる。海に行ってもどんなに波がでかくても、入らなくちゃいけないって気持ちになる。プロじゃなくて、普通のサーファーでもね。プロはコンテストならどんなに大きい波でも入らなくちゃいけないし、雑誌などの撮影だったらなおさら入らなくちゃいけない。それが仕事だからね。でも俺たちは素人なのに、なんで入ってっちゃうのだろうね。

俺が昔住んでいたサンフランシスコでは、でっかい波に乗るのが本物のサーファーだって言われてた。なにしろサンフランシスコはオーバーヘッドにならなくちゃ、波が良くなならないからなんだ（笑）。オーシャンビーチっていうポイントへ行ったら、どんな波でも入って乗らなくちゃいけない。

でもひとつだけ、逃げ道がある。それはサンフランシスコのワイズ・サーフショップのオーナーが教えてくれたものだ。そもそもオーシャンビーチっていうのはチャンネルがない。だから、波がガンガン入ってきて割れていても、ただ、パドルしてパドルして、タイミング良く出られるのを待つしかないんだ。乗れる波のところまで、30~40分パドルするのが普通だ。乗れる波はアウトサイドのリーフブレイクだからね。その前にインサイドのビーチブレイクを抜けないといけない。インサイドの波でも、そのスープと同じサイズだけ、下にもスープがあるから、ドルフィンで抜けるのも無理だ。板を捨てて自分だけでもぐるしかないんだ。それから波の裏からサーフボードを引き上げるんだ。オーシャンビーチでやってるサーファーのパワーコードの長さは10から18フィートあるから、もぐって波の下まで行けるから大丈夫なんだよね。

ワイズのオーナーが教えてくれたいいわけは、こうだ。波に乗れなくても、とりあえず海に入ると出ようとするのが肝心だ。出ようとしただけでも、認められるからね。それで許されるんだよ。でもいくらパドルしても出られないこともある。それはハートが入ってないからなんだけど、一応がんばったってことをアピールできるよね。出ようとするだけで、サーファーだって証明できるんだ。UNWRITTEN RULEなんだけどね。こんなふうなサーファーのプライドを助けるために、どんなビーチでもUNWRITTEN RULEはあるんじゃないかな。だろ？